令和８年度　　東大津高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・大規模校における校務運営の適正化を図り、教育目標を達成するため、全教職員が一致協力する。
・分掌と学年の連携を密にして職務内容や責任分担を明確にし､機能的な学校運営を図る。
・生徒が自ら考え、意欲的に学習する姿勢を育成し、心身の調和のとれた豊かな人間性の育成に努める。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	心身ともに健康で豊かな人間性の育成等の教育目標に基づいて教育活動を推進している。	A		
	教育方針や教育目標、教育活動に関する情報提供を適切に行っている。	A		
2　学習指導	効果的な授業時間の配置と確保をし、家庭学習の充実をはかっている。	A		
	各教科で指導目標を設定し、その達成に向けて工夫・改善を行っている。	A		
	デジタルツールの活用や学習の個別最適化を推進している。	B		
3　生徒指導	基本的な生活習慣の確立を目指し、適切な指導を行っている。	A		
	社会規範や市民道徳を守るよう指導している。	A		
	いじめやハラスメントのない居心地のよい学校づくりを生徒とともに推進している。	A		
4　進路指導	生徒の希望、適性、能力を把握し、生徒の自己実現を目指す進路指導を推進している。	A		
	生徒の希望や実態に合わせて、進路関係の行事や面談等のガイダンスを実施している。	A		
5　特別活動等	生徒の状況に応じた活動を計画し、実施している。	B		
	生徒会活動や部活動について生徒が主体的に活動できるように指導している。	A		
6　学校図書館	読書感想文コンクールの実施や図書館通信などにより、読書活動の促進に努めている。	B		
	文化的な活動や主体的な「学び」の場としての図書館づくりに努めている。	B		
7　保健・安全指導	教育相談等の校内体制を整え、生徒が心身の健康を自ら管理する意識を高めている。	A		
	防災教育や防災訓練を通して防災意識の高揚に努めている。	B		
8　人権教育	LHRや総合的な探究の時間などの取組を通して、生き生きとした集団作りに努めている。	A		
	あらゆる教育活動を通して、生徒の人権意識を高める指導を行っている。	A		
9　環境教育	資源保護の意識を高め、校内の美化に努めている。	B		
	SDGsの視点を取り入れながら環境学習に取り組み、社会貢献への意識を養っている。	B		
10　事務・管理	日常的な点検整備や小修繕の実施を通して、老朽施設・設備の機能維持ならびに校内の環境整備に努めている。	B		
	個人情報等を適切に管理している。	A		
11　その他 学校の取組	学校運営協議会やPTA、教育振興会と連携した活動を積極的に行っている。	B		
	高大連携等、地域との連携を図るとともに、キャリア教育を推進している。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、
あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

学校のＵＲＬ：https://www.higashiohtsu-h.shiga-ec.ed.jp/